



山州名點志

自祇園
至清水坂

二

ル 4
1834
2





州名跡志卷之二目錄

祇園

祇園社

相光天王

日光社

美御前社

後見殿

蘇民社

蛭子社此餘社

中載卷

觀慶寺

塔

龍穴

祇園和歌

疫伏社

山王社

祇園中路

知恩院

山門

鎮守社

堂

經藏

鐘堂

内佛殿

勢至堂

紫雲水

祖師塔

一心院

和尚石

小鍛冶鑪盤

石

爪生石

親鸞遺跡

無銘塔

常在光院

白毫寺

太子水

太子杉

安養寺丸山

堂

多福菴

州名跡志卷之二目錄

崇德馬場	巖栖院	湖月禪尼塔	佛殿	清泉	阿弥陀堂	蓮華院	雙林寺	堂	雲生寺	吉水
宮辻	牛王地社	天哉翁長嘯塔	方丈	佛種塔	御影殿	雲居寺	西行塔	功德水	道八塔	鐵砧石
七觀音院	下河原		鎮守社	鎮守社	大日堂	極樂堂	寂照塔	鎮守	真葛原	鎮守社
桂橋寺	菊水	獨秀峯	魄舍	高臺寺	宗德院	和歌	頓阿塔	東本願寺	和歌	慈鎮塔
			安開窟		宮			祖廟	長樂寺	

地藏院	經書堂	三年坂	鼠戶	念佛堂	堂	人丸社	青龍寺
大日堂	一竹塚	山井溪	山井	國阿上人塔	神明宮	引導寺	八坂
泰産寺	三本卒都婆	觀勝寺	靈山	舉白堂	辨財天社	八坂墓	法觀寺
			和歌				塔
							正法寺
							靈山

卷之二目錄終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

山州名跡志卷二

瑜伽林隱士ト如是相白慧ハ撰

愛宕郡ラタギノ東山ト八坂ハ郷

祇園キヅノ和語ニ加美乃カミノ曾濃ソノ在四條通賀茂河東三町餘

祇園社キヅノヤシ在同所町東ト鳥居ト南ミナミ向ムキ額ガク感神院カンシノイン堅額ツルカシ

照高院テウカウイン道ミチ是親シノ王筆オウデシ樓門ロウモン南ミナミ向ムキ中門チュウモン同ドウ拜殿ハイデン同ドウ樓門ロウモン西オク面オモテ

四條シヨウ社ヤシ南ミナミ向ムキ所祭神ソノマツルカミ三坐サンザ神カミ殿デン三間サンカン素交ソウカウ鳥トリ尊ツノ奥ウラ

八王子ヤチノイチ東ヒガシ間マ縮田スチダ姫ヒメ西オク間マ神傳カミツタヘ日本紀ニッポンキ見ミ多タ畧リョクス

夫當社ツレノマツルカミ形カタ尋常ヨリナリ殿舍デンシャ造也ツクリナリ是則コトハ最初サキノ昭宣シヨウケン公キミ殿宅デンタク

ヲ寄進ヨシジン之ノ社ヤシトナサシムルト故コトナリナリ事コト八吉田家ヤチキチノイヘ傳書ツタヘガキ中ナカ臣シノ拔ヒキ

抄セウニ出デ其外ソノトモ當社マツルカミノ始ハジメ末祭マツルカミ典ノミ濫觴ランサウ等ト載オモシテ詳コトバシナリナリ云イハレ上ウヘ畧リョク

素交烏尊ハ惡神トテ日本ニ勸請セズレテ御子大祀貴尊
ヲ出雲大社ト勸請スルナリ。後ニ大己貴ノ父神ヲ請ビ申サル、
ニ依テ末代ニ素交烏ヲ以テ本主ト為。清和天皇貞觀十八年
疫神崇ラ作万人病ヲ發コト以外ナリ。曩祖日良麻呂京中男
女ヲ引井テ。六月七日十四日疫神ヲ神泉苑ニ送ル。其次
ノ年又疫神崇ルホトニ百姓神輿ヲ神泉苑ニ送ル。尔來
年々六月七日ニ如此シツケテ是ヲ祇園會ト云テリ。其
神輿ヲ置所ハ八坂郷感神院ト云寺ナリ。是ニ神殿ナキ
ホトニ昭宣公ノ御殿ヲ參セラレテ其ヲ神殿トス。是ヲ精舎
ト云フ。就是後人祇園ノ名ヲ加ヘタリ。然間今ニ祇園ハ神社
造ニテハ無ナリ。其後天皇ノ号ヲ授ルナリ。被秘二十一丁目

午頭天王初垂跡於播磨明石浦移廣々其後移
山城白川東光寺其後移感神院 二十二社註式
私云廣峯ハ播州姫路ノ西一里計ニアリ 門後天
貞觀十一年始天王從播州遷座 改曆雜事記
吉備公歸朝日於當山奉崇午頭天皇也歷年數
為平安城東方守護奉勸請祇園荒町 播摩國峯相記
清和帝貞觀十八年移此地 社記
圓融院天祿三年以祇園為日吉末社 慈惠大師記
例祭 天祿元年六月十四日始御靈會自入歲
行芝 二十二社註式

攝社末社

○相光天王社 在拜殿東傍西向 神傳神祕也

○三光社 在中門內北向 所祭 日月星

○美御前社 在本殿東西向 所祭 素戔嗚御

子也

○後見殿 在本殿良間南向 所祭 大己貴命

○蘇民將來社 在西樓門內南向 所祭 蘇民將來

○惠比須社 在右同門內北向 額 北向夷 安夷

木像

同攝社東方從南至北西此中毘沙門辨財天等

ヲ勸請スル所除之ヲ

○日向社 ○大神宮 ○熊野權現社 ○稻荷社

○愛宕社 ○唐崎社 ○山王社 ○白山社

○八幡宮 ○松尾社 ○多賀社 ○春日宮

○藏王社 ○蛭子社 ○白鬚社 ○貴船社

○阿蘇社 ○大社 ○龍田社 ○御池社

○大田社 ○塔 在本殿東 本尊大日如來 坐像二尺余 作不考

○元三大師像 安本殿傍東庇間 大師 坐像二尺余 作不考

○觀慶寺 本殿西藥師堂是也本尊 藥師佛 立像六尺三寸 作

傳教大師安厨子 脇士日天月天十二神安同壇上 立像二尺七寸

作不考又安觀音地藏立像 夜叉神坐像 凡藥師佛安置ノ

處此脇士有二天日月ノ本躰ナリ十二神八毘羯羅大將 招

社羅真達羅摩虎羅波夷羅因達羅珊底羅安你羅
額底羅迷企羅伐折羅宮毘羅大將已下准之當手
五十六代陽成院勅願處開基圓如上人也宗旨法
相其後天台宗ニ改ハ慈惠僧正中興也ト委縁起

○龍穴傳云在社壇下出續古事談文ニ云祇園ノ社
ノ下ニ龍穴アリ延久ノ比梨本座主其深カラ知シタメニ繩ヲ下サ
シムルニ五十丈ニ及ブトイヘ比猶底也已上梨本座主ハ天台
梶井門主別稱也

詠當社倭歌

詠其所和歌便載傳後以下准之

○松本集月やたねをのり長よりのとらゆる結のそよは
又本集四のれんたのりそよはりのとらゆる結のそよは

右歌ノ如シ昔ハ池アリニヤ今ハ無

○疫伏社在祇園社西門外北町東向東向鳥居木柱額

疫伏社 豎額 所祭疫神ナリト云々 諺云淨藏貴所ヲ祭ト

又云此所昔文覺法師行齋シテ平家ヲ呪祖セシ所也未考

○山王社祇園鳥居西路傍南向社是ナリ 今傍ニ三猿ノ像ヲ安ス

此社ハ往昔山門ヨリ禁裏ニ監訴ノ事アル時ハ員吉社ノ

中何ノ神興ニニモコレヲ 帝關ニ振奉ル訴ノ事心望ニ達セ

ガレバ神興ヲ捨置テ帰山ス其事度々ニ及ヲ以テ神興ヲ

祇園ノ社ニ移サラルトイフハ此所ニ置奉ル也 平家物語第

一云去スル保安四年四月ニ神興入洛ノ時ハ座主ニ仰テ

赤山社工入奉ル又保延四年七月ニ神興入洛ノ時ハ祇園ノ

別當ニ仰テ祇園ノ社工入奉テル。今テ度モ保延ノ例タルベ
シトテ祇園別當権大僧都澄憲ニ仰秉燭ニ及シテ。祇園
ノ社工入奉ル云々

●祇園中路今詳ナズ 古今著聞集ニ出

○東山大谷寺 知恩院 宗旨淨土 鎮西義 祇園寅

卯ニ在テ隣ヲナス 境地山上東ニ峯アリ地名大谷 又

吉水号ス ○山門西向 閣上釋迦佛并月蓋長者善

財童子十六羅漢像ヲ安ス ○堂南向 ○額 大谷寺 堅額

後奈良院震筆 安所 圓光大師像 坐像二尺二三寸

阿弥陀佛 立像三尺 作寛印供奉 東脇壇ニ安ク 此像法

然上人臨終佛也。事ハ上人ノ傳書ニ記ス ○經藏 在堂東

傍西面 傳大士二童子ヲ安ス ○鐘堂 經藏ノ南山上ニアリ

○鎮守官 山門内卯辰間ニ在 鳥居 西向 拜殿 同

官 同 勸請所 八幡 ○勢至堂 堂東山上南向ニ

在 額 知恩教院 堅額 後栢原院震筆 今掲所

本尊 勢至菩薩 坐像二尺余 作安阿弥厨子ニ安ス始此

所ニ法然上人ノ像ヲ安ス。滿譽和尚ノ代 公命ニ依テ

當山ノ伽藍今ノ如ク御建營アリ。然ノ上人ノ像ヲ以テ本堂ニ

移ス。此所ニハ勢至菩薩ヲ安置セント欲セリ。是即上人ハ彼

薩埵ノ化現ナル謂也。然リトイヘドモ意ニ叶フ像無シテ猶

豫ス。或時勢至ノ像ヲ持來テ售ト云フ者アリ。即チ和

尚ニコレヲ告ル招テ是ヲ見ルニ古作ニシテ相好圓滿ス

和尚感悦頻ナリ其直ヲ問シタメ來夫ヲ尋ヌルニ更ニ行方ヲ不知復再ビ來テ無見聞ノ輩ヲ和尚ノ法徳ト稱殆奇貴ヲナス人ノ本尊是ナリ其後傳聞陸奥ニ堂アリ是即秀平ガ造營スル所ニシテ勢至菩薩ヲ安其像忽失タリ此像是ナリト云フ

○阿弥陀堂 在同門内東向 阿弥陀佛 立像三尺余 作不考

堂内敷尾 ○紫雲水 勢至堂東傍ニアリ 法然上人入

寂ノ時紫雲此水ニ移ル ○法然上人塔 同所東山上

南向ニ在 堂内厨子五輪ノ石塔ヲ安ヌ

抑當山ハ一宗開運ノ靈地及元祖大師入寂所也故一宗第一ノ本寺ト為是即 前帝詔勅ノ綸旨アリ宗旨惣本寺ノ

號此ニ興レリ于世 淨土四箇ノ本寺ト云ヌ實ハ四箇流

ノ本寺タルノ義也其四箇ニハ鎮西流義ニハ西山

義三六長樂寺義四ニハ九品寺義ナリ是皆當山吉

水ノ一源ヨリ出四本寺故ニ毎歲ノ開山忌ヲ御忌稱

法會ヲナスコト是又勅命ニ依綸旨御教書アリ一流

都鄙ノ僧徒出世上人號 勅許ヲ願ニ至テハ當山ヨリ

執奏ス是又詔勅ニヨレリ此地古ヨリ大谷ト号ス土地

山嶽ニシテ谷境廣莫ナレバナリ如今

東照宮伽藍御建營ノ時嶮岨ヲ穿テ平坦ナラシム吉

水ト稱スルハ水ハ則南隣圓山ニアリ古ハ彼地ト封シテ

天台山門ノ別院アツテ南禪院ト号ス慈慧大師ノ草

創也始法然上人宗義興隆ノタメニ睿嶽ヲ去テ此地ニ來レル所以アリ其故ハ青蓮院ノ法務慈鎮和尚山門十二代ノ座主ニシテ此地ヲ官ス嘗上人ノ法義ヲ隨信シテ志契深至也故ニ此地吉水ノ房以テ上人ニ寄附セリ上人左遷飯洛ノ時又此地ニ來レルモ彼和尚ノ招請也委ハ傳譜ニ載タリ吉水ト号スル地ニ名水アルニヨル例セハ江州ノ醒井ト称スルモ地ニ醒井アリ又當國綴喜郷ニ玉水ト称スルモ彼名井称ニヨル又慈鎮和尚ヲ吉水和尚ト称スルモ此地ニ居在ノ故也然ルニ此所ハ一宗ノ開發宿縁ノ靈場ナリ昔上人生死解脱ノタメニ諸宗ヲ參學アルニ定慧兼備セズ断惑證理アラサルコト諸宗共ニ同ジ是故ニ自利利

他ノタメニ山門ノ經坊ニ入テ一切經ヲ披閱セルコト五返其時善導和尚ノ制作五部九卷ノ書ニ造惡凡下ノ往生極樂ノ旨ヲ容易ニ釋セルニ當テ悲喜身腑ニ徹シ更悉覽スルコト三返前後八返ニ及テ觀經ノ疏ニ一心專念弥陀名號行住坐卧不問時節久近念々不捨者是名正定之業順彼佛願故トイフニ至テ廓然トシテ其玄旨ヲ開會ス然レバ即自上下出離ニ於テハ决ストイヘ是ヲ以テセラ勸化センコト佛意難量還案良切ナリ或夜ノ夢中ニ忽尔トシテ大山ニ至ルニ嶺嶽高峻ニシテ西ニ向フニ麓ニ流アツテ河境渺々トシ樹林榮々タリ忽空ニ一聚ノ紫雲アリ雲中ヨリ一人ノ僧出下テ上人ニ近ケリ

相好貴端ニレテ腰下半身ニ金光ヲ現ス上人低頭合
掌シテ問云貴僧ハ誰トカスル僧答云名ハ善導汝專
修念佛ヲ以テ弘通センコトヲ願ス廓了ノ義勢我意ニ
合シ兼テ佛意ニ應ズ宜ク流布スヘシ化益無量ナラント
然モ亦鄭重ノ授記ヲナセリ時ニ上人年齢四十三承安
五年春三月也其後弘教ノ為ニ四明ノ西塔ヲ下テ當州
西山ノ廣谷ニ至リ住ス然後今此大谷吉水ノ地ニ來ルニ
夢中ノ所現今ク此所也上人身ハ睿嶺ニアツテ神ハ此地
ニ來テ善導和尚ニ謁シ淨土ノ要旨ヲ相承セリ今ニ至
一宗ノ口決相傳是ナリ然則此所ハ一宗ニ於テ無比最上
ノ靈地謂フニ閻浮ノ淨刹上人此地ニ止在ノ時地ニ三坊

アリ一ニ吉水西舊坊本主アリ假ニ住ス其地丸山ノ西ニ
當ルニニ吉水中坊西山廣谷ノ庵室ヲ移ス今經藏ノ地
也三ニ吉水東新坊今小方丈ノ地ナリ傳書ニ大谷ノ州
菴ニ住シテ選擇集ヲ撰スト云此所也上人一世ノ始末傳
記ニ委悉ナリ當山ニ在所ハ伏見院後伏見院當寺
七代如一國師ヲ召テ淨土三經五部九卷選擇集講演ヲ
御聽聞アツテ睿感ノアリ山門功德院ノ舜昌法印ニ
勅シテ上人行狀ノ舊記ヲ撰述シ兩上皇後二條院ノ
宸筆又尊圓法親王并世尊寺家ノ良筆ニ書ク下ヘリ
全篇四十八卷畫圖ハ土佐ノ吉光ニシテ今寶庫ニアリト
又法親王門跡當寺御法務ハ

東照神君ノ上奏ニシテ良純法親王其權輿也

○一心院 勢至堂ノ南ニアリ此所捨世道場氏云フ遁世

隱士ノ宗風ニシテ住僧位官ニ昇ラス黒衣ヲ著ス開基

縁譽称念法師 寺東向 額一心院 横額 光源

院義輝公筆 ○本尊 阿弥陀佛立像二尺余 作安阿

弥 傳記云此像初被安置青蓮院一代門主所寄

進也

開山傳云師諱吟翁字縁譽後号称念藤田氏父左

衛門尉道昭母富永氏武藏國品川人也八歳而師

事江増上寺第七親譽則剃髮染衣其後好隱遁退

勢州入洛東新黒谷居住三歳終詣大谷影前備水

出離要路寺内側結草廬号一心院天文廿三年七

月十九日唱弥陀逝年四十有一

○和尚石 方丈南庭アリ傳云慈鎮和尚此石ニ腰ヲ

カケテ真葛原ノ和哥ヲ詠ゼリト石初山門ノ内池ノ上ニアリ

此所古ニ云フ真葛原ナリ或曰和尚トイハズシテ和尚ト云

コト如何云クハシヤウハ天台ノ名目ナリ禪淨土ニハオシヤウ

ト呼ナリ

○小鍛冶鑪盤石 山門石壇下西南方アリ側ニ井有

此水則及ニ用ヒシト是土人ノ口説ニテ實記未考圓山

僧ノ云此石昔ハ圓山吉水ノ傍ニアリシト昔ヨリ釵乃

ヲ鍛時神社佛閣ニ祈リ清淨ノ地ニ居シテ是ヲナス事

今三旦レル例也。但此所鍛冶宗近カ宅地也ト云フハ非也
尙未卷ニ見タリ

○瓜生石 山門前到北東西ニ通ル路ノ中央アリ。此
石ニ説々有トイヘ氏信用シ難シ。故ニコレヲ略ス。當山ノ住僧
古老ノ説ニ一義アリ。往昔此石ノ下ヨリ一夜ニ瓜草生
其蔓程ナク石面ニハビコレリ。依テ見聞ノ人希有ナリ
トス。其後花ヲ生ジテ又胡瓜ヲ生ズ。其瓜ニ午頭天皇ノ
文字有トモ又ハ感神院ノ字也トモ。是ニ依テ此石靈
石ナルコトヲ貴テ。不淨ヲハラヒ。又石上ニノボル事ヲ戒ム。終
ニ其瓜ヲ取テ粟田ノ天王ノ攝社ニ納ム。此所元ヨリ青
蓮院ノ敷地ノ故ナリ。此故ニ今ニ至リテ彼神社ニ胡瓜ノ

矛有テ祭日是ヲ躑也。昔ハ祭日ノ前夜必神輿遷來
テ此石上ニシテ祭事アリシガ。老若群集シテ或時鬪諍ヲ
ナシテ騒動ニ及ブ。此故ニ明年ヨリ西ノ大門ヲ閉シテ。神輿
ヲ入ズ。是ヨリ此義ナシト云々。此説則當山ニ在リ。又云粟田ノ
天王ノ例祭ノ日矛數本遷行ナリ。其中胡瓜ノ矛ヲ第一ト
ス。白絹ノ旗ヲ付タリ。感神院 新宮ノ字アリ。青蓮院門主
ノ筆ナリ

○親鸞上人遺跡 山門ノ北ノ地也。上人ハ法然上人ノ高弟
淨土真宗ノ開祖ナリ。遷化アツテ鳥部山ニ火葬シ塚ヲ
其麓ニ築ク。其後文永年中ニ此地ニ移ス。上人ノ傳書數
品アリ。是ヲ參考スルニ始鳥部山ノ延年寺ニ火葬シ骨其

邊ニ藏ム文永九年ノ冬吉水ノ北ノ邊ニ遺骨ヲ移テ佛
閣ヲ立影像ヲ安置ス々其地是也今山門ノ北崇泰
院ノ地ニ古墳ノ跡アリ按ズルニ是宗義繁榮ニ依テ廟塔
ヲ變改シ堂閣ヲ建時ハ龜山院ノ御宇壬申親鸞ノ
滅後十一年也此時本願寺ノ號ヲ賜ル傳云此御本廟
ハ文永九年ヨリ此方代々恙ナカリシガ蓮如上人ノ代
アリ繁昌アルニヨリ文明三年二月十六日折節彼岸
ノ事アルニ山門ノ惡徒四五百ノ勢ヲ卒シテ大谷ヲ破
却セントス一書曰此時坊徒大ニ騷動ス時ニ越前住井上
氏手勢數輩具シ來テ亡命ヲ顧ス防戰フ其勢ヒニ恐
惑シテ大衆退散ス仍テ上人ノ廟郭舍トヲ得タリ是

以テ蓮如上人其感狀ヲ授ケ法名ヲ願知ト名ラル
其苗孫今尚本寺ニ隨從ヲナス
△無銘塔 在知恩院玄關門前生垣内 無銘ノ
五輪塔ナリ此塔ニ寄テ異說太多シ或云鎌倉極樂寺
僧忍性ノ塔ニシテ五条寺町ノ太子堂ヨリ毎年盆供ヲ
ツトムト予此事ヲ貞享五年二月ニ太子堂ノ當住知本
比丘ニ尋ルニ此事ナキナリ又說自然居士ノ塔ト無銘ノ
故ニ或說ヲナス無銘ノコト最モ謂アリ別記ニノス無
銘塔當國ノ中在四所形而圍大ナリ其有所部中ニ見
●常在光院 往昔當山アリ其地今ノ中門ノ内ヨリ東
ニ亘ト云フ開基詳ナラス後改メテ相國寺ノ別院トナス

此院ノ鐘ノ事徒然州九十九段ニ載タリ。銘ハ在兼卿ノ
草行房朝臣清書セリトゾ。慶長年中知恩院御造營
ノ比移他断絶ス

●白毫寺 院號速成就院。具ニハ速成就院也。又太子

堂ト號ス。此寺始今ノ御門主御所地又西ニ亘開基
聖德太子。釋迦阿弥陀ヲ安ス。又自作影南無佛稱

ノ像ヲ安ス。故ニ太子堂ト号ス。知恩院 御建立ノ時寺
五條ノ下ニ移ス ○太子水 此井清泉今尚存ス

在塔頭浩玄院 ○太子杉 在前同所
枝葉繁茂シ朦朧タレトモ。一枝ダモ伐ス伐ハ即奇怪アリ。傳云
太子手自ウエ玉ヘリト

●後花園院陵 太子堂山上ニアル由。隆戒記ニノス

今詳カナラス △鶴林 崇泰院ノ前林ノ地ヲ云。名義詳カナラス

愚案古太子堂ノ封境曠量ナリト。然ラバ此所其方内
太子御建立ノ所ニ。鶴林堂ト号スル佛閣播州ニアリ。此

地モ又太子ノ号玉ヘル者歟。後勘アルベシ
圓山安養寺 称圓山。知恩院ノ南ニアリ。宗日 時宗

門西向 堂 西向 寺家東方上壇地ニアリ 本尊
阿弥陀佛 立像ニ 作安阿弥

當山始傳教ノ開基ニシテ。山門ノ別院ナリ。縁起ノ詞
ニモ始天台宗ニシテ慈慧僧正ノ木像アリト。中比寺門

衰微ニ及ビ司職断絶ス。因テ建久年中ニ青蓮院慈鎮僧正中興シテ住持セリ。其後永徳比播州書寫山圓教寺源英阿闍梨弟子光英法師居住ス。其後時宗ノ僧國阿法師ニ當山ヲ讓レリ。是ヨリ時宗連綿ス。國阿傳末ニ見エタリ。當山二代ヲ宣阿ト号ス。堂建立。後小松院ノ御宇ニ源昭トイフ琵琶法師此山一叅詣テ祈誓シテ云願望ノ事。禁裏叅内ニアリ。願ヲ滿シメ玉ハバ。一堂ヲ建立スベシト。且信無ニナリ。遂ニ其藝世上ニ溢。叡聞ニ達シテ雲上ニ召レ。勅ヲ得テ琵琶ノ一曲ヲ奏セシカバ。叡感ヲ下シテ檢校ノ僧位ニ任ゼラレ且又紫衣ノ法衣ヲ賜ヌ。末代ノ盲者官ノ品ヲ定メ。色衣ヲ著

スル事昭ニ始ルモノナリ。昭則宿望ヲ逐テ當寺ヲ造建ス。縁起意

○多福菴 鎮守社西東面ニアリ。大乘院ト号ス。此所慈鎮和尚ノ閑栖ノ地ナリ。其後法然上人住セリ。上人傳ニ載ルトコロ吉水ノ房是ナリ

○吉水 多福菴ノ下。石階ノ傍ノ清泉是也。則地ノ名トス。慈鎮和尚コノ所ニ居住ノ故ニ吉水和尚ト称ス。自作ノ影ヲ安ス。件ノ由縁ヲ以テ青蓮院代々住職。親王門主ニイタルマデ。一代初度ノ行法ニハ此水ヲ以テ關カトシ夜深更ニ及テ附法ノ師トモニ。此所ニ來テ手ツカラ水ヲ扱ル、事アリ其式甲冑ヲ著シタル者

前駈シ白衣ヲ著スル僧。水桶ヲ荷ヒテ列ヲ引。門主
乘輿ニテ來臨也。種々ノ式アリ

○鐵砧石 吉水ノ傍ラニアリ

○鎮守社 同所辨財天社ノ傍ラニアリ。縁起云。粟田

口ノ藤四郎ト聞エシ鍛人。年來吉水ニ詣テ。名劔作

シメ玉ヘト祈念セシカ。或夜ノ夢中ニ。白髮ノ翁ト。老僧

貴女ト。三人相共ニ現ジテ告云。汝ガ願フ所。實アラハ。吉水

ニ於テ鑊ヲ鍛ベシ。然ハ願望成弁ナラント云。畢テ化ス。

覺テ後翁ハ住吉ノ神。僧ハ山王権現。貴女ハ是弁財天

ナレベシト了知ス。則潔齋シテ此所ニ籠テ。鑊ヲ鍛則當

山ノ石ヲ以テ鑪盤トシ。吉水ヲ以テ及ノ水トシテ。鋌出スニ

上品ニアラズト云フナク。其譽レ天下ニ溢タリ 縁起意

○慈鎮塔 吉水北上壇ノ地ニアリ

○雲生寺道八塔 同所良阿弥内ニアリ 道八ハ俗稱織

田左衛門信長公弟有樂子ナリ

○真葛原 安養寺ノ門前西ハ祇園林ニ至リ。北ハ知恩

院山門ノ邊ニ至テ是ヲ号ス。此比雙林寺門前ノ西ニテ勸

進能ヲナスニ及テ。其地ヲ真葛原ト云ハ大ニ非ナリ

此處ハ松林時雨の涼しめては葛原系に風さらくそり
風さくても葛原此れハ秋のやまうらめし

○東山長樂寺 在圓山南 門 西向 宗旨時宗

宗祖國阿弥二世宣阿弥 當山ハ往昔天台宗 開基

傳教大師 延曆年中ニ開ク處也或書云此地景唐土ノ長樂寺ニ相似タルヲ以テ號ト 堂南向 額長樂寺 豎額青蓮院道證法親王筆 本尊千手八臂十一面觀音 立像一 尺三寸 海底ヨリ出現ノ像ナリ傳云傳教大師入唐アツテ歸朝ノ時海上ニ百余里ニシテ惡風起テ船ヲ破シトス傳教一心ニ波浪不能没ノ悲願ヲ持念セルニ波漸クオサマツテ忽海上ニ瑞光ヲ現ズ其光親クナルニ及テ龍神形ヲ現ジ頭ニ觀音ノ像ヲ載テ來ル傳教禮拜合掌セラルニ忽然トシテ彼像衣ノ袖ニ飛來シ玉ヘリ今本尊座下ニ龍形ノ蟠ルハ其相ヲナス是又大師ノ制作ナリ件ノ由縁ヲ以テ 桓武天皇此寺ヲ草創シテ尊像

ヲ安置シ玉ヘリ 或時大師當山ニ於テ辨財天ノ神形ヲ拜見セリ則其相ヲ刻彫シテ鎮守トナシテ社ニ安置セラルニ上縁起意 件ノ神祠堂ノ下西ノ方ニアリ傍ニ櫻ニ連理ノ枝アリ今ノ堂ハ 後水尾院ノ御造管本尊ノ厨子ハ東福門院御寄附ナリ ○功德水 掌前東山下ナリ此號アルコトハ昔天台ノ僧ニ隆寬律師アリ小納言資隆朝臣ノ子也慈鎮和尚ヲ師トナシテ出家シ諱ハ隆寬号ヲ皆空無我ト云台宗ノ教理ヲ究ム後ニ法然ノ徒弟トナツテ專修念佛ノ行者トナリ行年八十歳ニシテ寂ス其砌附弟ヲ集テ臨終ノ念佛ヲ修ス開闢發願シ鐘ヲナラス時此池水ヨ

里忽然トシテ青蓮花出生ス。是故ニ青蓮花池念佛功
 德水ト号ス。旧記ヲ按ニ隆寛ハ當寺ノ地内ニ別院ヲ構
 居セリ。其比封地ノ中ニ小坂アリ。依テ其房ヲ小坂房ト
 イフ。此故ニ隆寛所立ノ念佛安心ノ法脉ヲ小坂義トモ
 又ハ他念義トモ云フ。隆寛所持他念義ノ數珠今當寺ニ在
 ○鎮守社 功德水上アリ 祭所 山王
 ○安徳帝御衣幢 當寺ニアリ 此帝ハ八八皇八十一代ノ
 天子ニテ 高倉院ノ皇子母ハ建禮門院文治元年己
 巳三月廿四日。源平ノ合戰ニ依テ長門國赤間ノ沖ニ
 シテ御入水 御年八歳 此幢 事載平家物語 ○女院ハ文治元年五月一日
 ノ日御髮才口サセ玉ヒケリ。御戒師ハ長樂寺阿訶房

ノ上人印誓トゾ聞ユ。御布施ニハ先帝ノ御直衣トゾ先
 帝海工ハセ玉ヒケル其時ニテ召タリケバ。御移香 盡ズ
 御形見トテ。西國ヨリ持玉ヒタリ。如何ナラン世ニテモ御
 身ヲ放ジト思召トモ。御布施ニ成ベキ物ノ無ユハ彼御
 菩提ノ為ニトテ。泣々取出サセ玉ヒケル。上人菴室ニ歸
 彼御直衣ニテ。十六流ノ幢ヲ縫テ。長樂寺ノ常行山室ニ
 カケテ。御菩提ヲトブラヒ奉リ玉ヒケル 已上源平盛衰記平家物語
 ○建禮門院ハ清盛入道ノ息女母ハ贈左大臣時信公ノ
 女。落飾ノ年廿九歳同畫影アリ。影 淺黄衣白衣合掌 向左長一尺四五寸許
 本朝文粹卷十二 初冬於長樂寺同賦落葉山中路
 高岳相如 夫長樂寺者形勝之其一也。山頭東

嶮望鷲峯於不退地之前野面西平願鹿苑於無漏
界之右于以俗機可斷于以業塵可消略

長樂寺在長樂寺南西
長樂寺在長樂寺南西
長樂寺在長樂寺南西

白くんむ乃のまゝしてけり物うけを極うけ

○大谷地名長樂寺南アリ 大谷ノ名實ハ上ニ載ゴトク知

恩院地是也然ルヲ彼寺造營ノ時上古ヨリ在所ノ親鸞上
人ノ廟閣ヲ以テ鳥部山ニ移ス然其所ヲ名ツクルニ旧号ヲ以テ

大谷トナスナリ今此地ハ東本願寺ノ領ニシテ同上人ノ廟塔
アルヲ以テコレヲ名ツクルナリ

○堂南向 本尊 阿弥陀佛 立像二尺余 作安阿弥

此本尊靈驗アツテ片山佛ト称ス東武ノ玉片山氏ノ持尊
ナリ或時靈夢ヲ感ズ洛陽東本願寺ニ移スベキ由門葉ノ
輩同夢ヲ感ズルコト屢ス仍テ其旨趣ヲ一紙ニ書シ連判ヲ
ナシテ奇附ス當宗ノ風義奇化ヲ不語トイヘモ予聽聞ノ
感信ノアマリ聊コレヲ書ス

○親鸞上人廟 山上ニアリ 佛殿及此所元祿年中造營

ニシテ莊嚴花美ナリ貴敬渴仰ノ詣人間斷アルコトナレ

○金玉山雙林寺 在長樂寺南西 門西向 宗旨時宗

宗祖 上同 開基 傳教大師 拾芥抄云雙林寺在

大史尾張定鑑建立 五卷十 堂南向 本尊 藥師佛

坐像三 尺余 作傳教 此外安所 慈覺所作阿弥陀佛

脇土ノ三尊釋迦ノ立像アリ。案ズルニ當寺ノ境界。往古
今ノ高臺寺ノ界内中央ヨリ東方ニ至リ。門ハ南ニ向ヒ道ヲ
東西ニ通シ。道ヨリ西ノ方ハ峰ヨリ下ル。溪水ノ流アツテ南
工橋ヲ渡シテ雲居寺ノ北門ト相向ヘリ。此溪ハ則今ノ
東隣東漸寺山トニツノ間ヨリ出ル流レナリ。是ヲ菊溪ト
号ス。今纔ニ残テ。高臺寺ノ北門内ヲ東ヨリ流レテ入
家ノ東ヲ經テ。下河原ノ石橋下ニ出ルナリ。此外地形往
古ノ圖畫世ニアリ。又八坂法觀寺ノ圖モコレニ同ジ。又云所
ノ東漸寺ハ法花宗ニシテ。本能寺ノ末院ナリ。
○中靈山 當山ノ別号也。太平記卷十五云是也。謂意ハ
初靈山。双林寺。長樂寺。圓山。共ニ傳教ノ開ク所ニテ。又

ノ所也依テ号ル也

○國阿弥上人傳 播州之住人安氏著崎國利子諱
國明父母以無子祈十一面觀自在像而感得靈童
生成人聰明也。文和四年四十二歲而遁世發心號

國阿弥陀佛巴下思安當寺
○西行塔 堂傍西方アリ 西行法師此所ニ閑居ス

子ガハクハ花ノモトニテ春死ナシ其二月ノ望月ノ比 兼テ
此和歌ヲ詠ズ。遂ニ感應ノ建久九年二月十五日ニ卒ス

張孛彦西行上人の記に双林寺小石竹の以
二月十六日西行上人の記に双林寺小石竹の以
ひりしを又志の竹の治とひりしを二月の望月とひりし

○寂照塔 同所ナリ是則平判官康頼ガ法名也
兼テ此山ノ風景ヲ愛シ山莊ヲ構テ花晨月夕此所ニ
來リ栖シナリ治承ノ始流刑ヲ得テ嶋迂然後歸參ノ日
直ニ當山ノ別莊ニ籠居ス寶物集ヲ作ル婦ル日此所ニ
テ讀ル哥ノ故郷ノ軒ノ板間ニ苔ムシテ思ヒシヨリモ
漏ヌ月哉 載源平盛衰記

○頓阿塔 同所ナリ 頓阿法師當山ニ住ス此故ニ
近年之建ル頓阿ハ小野大納言能實ノ末葉ニテ四條
道場金蓮寺ノ僧ナリ兼好トセラ同シテ和歌ヲ以テ世
ニ鳴稱ノ和歌ノ四天王ト云コト世以テ知處ナリ家集ニ
草菴集續草菴集アリ右西行康頼等住居ノ地當

寺ニ筆記ナシ按ズルニ今他境ニ成教或記云双林寺号
花園院又說ニ是康頼ガ山莊ノ号ナリ
蓮華院 双林寺門前宇女御田ト云是ナリ古云祇
園女御館跡ナリ今双林寺境界西北ノ隅藪ノ外道
ノ側ニ方ニ間余鋤ヲ入サル叢是ナリ此所彼殿宅ノ境
内ナリ後世ニ至テ寺トナレテ蓮花院ト号ス其後亡滅
然トモ一靈有テ地主ト成ニマ昔ヨリ此地ヲ領スル者ナシ
地ヲ動共即崇アルナリ近世双林寺ノ若僕此所ヨリ古
タル石ヲ取來リ寺内ニ置ヌ其夜俄ニ發熱スルコト太
頓テ此地主ノ崇リ成コトヲ知テ彼石ヲ以テ元ノ地ニ返
スニ程ナク平愈ス ○祇園女御ノ事盛衰記ニ載云古人

申ケルハ清盛ハ忠盛ガ子ニ非ス。白川院ノ御子ナリ。其故ハ
彼帝感神院ヲ信ジ御座シテ。常ニ御幸有ケル。或時祇
園ノ西門ノ大路小家ノ女ノ怪キガ水扱桶ヲ戴テ麻ノ
袂衣ノツミヲ舉ツ。韓ニ桶ヲスエテ御幸ヲ拜ニ奉ル
御門御目ニカハル御事有ケル。還御ノ後彼女ヲ宮中ニ
召テ玉躰ニ近ツキ進セケリ。祇園ノ異ニ當テ御所ヲ造
居ラレタリ。公卿殿上人モ重キ人ニ思ヒ奉テ祇園女御
トゾ申ケル。今ノ蓮華院ト申ハ彼女御ノ御所ノ跡ナリ。又
東鑑說異ナリ。曰。鳥羽院御寵祇園女御者源仲宗妻
也。而召仙洞之後被配流仲宗於隱岐國。云云。夫十六
雲居寺。此寺今高臺寺佛殿方丈地ナリ。應仁ノ兵火ニ

燒ス。後再興シテ終ニ存ス。高臺寺建立ノ時他所ニ移ル
開基。瞻西上人記云。崇德帝御宇天治二年七月
十九日建

●極樂堂 佛殿云。當寺文明元年兵火ノタメニ滅
已來断絶

○古今著聞集卷五日。祭主神祇伯親定伊勢國イ
ハテト云。處ニ堂ヲ建テ瞻西上人ヲ請ジテ供養ヲ遂ケリ。
其布施ニテソ雲居寺ヲハ造畢セラレケル云々
○拾芥抄云。雲居寺花園向祇園南。阿弥陀云花園ハ
双林寺ヲ云フ

千載集
寤ぬと人言はるれ捨糸多しに詠河在太深

まのりて、文彦は、りふりめり、
云居寺應仁記ノ如ク、悉ク炎上ス。本尊ハ大像ノ故、火災
ヲ適レガル歟。以後再建シテ他所ニ移ル。或地ノ字ニ雲居
寺ノ引ト号スル所アリ。然、許多ズシテ亡滅セリ。今雲居寺
号ナレ引ノ地別記ニノス。案スニ雲居寺ハ文永中僧善逝ガ
建ル所初メ山門ノ徒ナリ改宗、之ヲ開本尊阿弥陀佛一
丈六尺、已上法華經啓運抄卷
四十二四十九丁出取意

○觀勝寺 在祇園林坤 門 東向 宗旨 真言 華嚴兼
學 當地ヲ指テ安井ト称ス是當寺ノ号ニハ非ズ古ノ
主ニヨルノ旧称ナリ。堂ヲ光堂ト号シ院ヲ光明院ト号ス。

夫當寺州創ハ平安城遷都已前ニシテ春日明神垂跡
シ玉ノ灵地ナリ。是故ニ大職冠鎌足公此地景ヲ愛シ
自紫色ノ藤ヲ植テ家門藤氏ノ榮久ヲ祈リ玉ヲ所
也。其苗今ニ殘テ每歲都下ノ貴賤目ヲ喜バシム昔号
テ花寺ト云。今猶コレヲ称ス 崇徳天皇此花ヲ愛シ
玉ニ數度御幸ノ鳳輦ヲメグラサル。或時白衣童子忽然
ト現ジテ 帝ニ近付テ此藤ノ來由ヲ奏シテ云。南京ニ
不比等南圓堂建立ノ時春日明神老翁ト現ジ玉ヲ
神詠アリ。普陀洛ノ南ノ岸ニ堂タテ。今ノ榮ハ北ノ
藤波是即此藤ヲ讀玉ヲナリ。彼所ヨリ北ニアツテ然
不比等ノ先祖大職冠ノ植玉ヘル故ナリト奏ス。茲因

不比等ノ先祖大職冠ノ植玉ヘル故ナリト奏ス。茲因

睿感信敬シ玉ヒ終ニ此所ニ殿舎ヲ造營シテ后妃
 阿波内侍ヲ住シメ淺カラス御幸シ玉ヘリ其後帝保
 元ノ乱ニ依テ讚州松山ニ遷幸シ玉ヘリ事ハ保元ノ乱ニ依テ見ヘタリ皇后ハ
 猶此所ニ住セリ此御門ノ讚州ニ移玉フ故讚岐院ニ
 申ス彼地ニオ井テ御相好ヲ鏡ニウツシ其ヲ摸シテ自ラ
 東帶ノ尊影并ニ御隨身二人ノ形像ヲ畫玉ヒテ皇后
 ニ送り玉ヘリ三幅ノ畫像今當寺ニ在ニ在リ其後上皇長
 寛二年八月廿六日讚岐國松山ニ於テ崩御ス是ニ依テ
 皇后ハ落鎊セラレカガリヲユス法名佛種尼此人知足院公種女ナリ
 ○天皇崩御ノ後御灵此所ニ臨幸アツテ夜々光ヲ
 放手玉ヘリ世俗光堂ト号ス時ハ龜山院ノ御宇京

師ノ男女騷動ノ彼光ノヲアマシム其比大圓法師トイフ
 真言ノ名匠修鍊ノ行者アリ彼灵光ヲ見テ即此所ニ
 叅籠シテ持念ス一夕深更ニ至テ崇徳院尊躰ヲ現
 シ玉ヒ勅シテ此所ノ來縁上來ノ旨ヲ示シ玉ヘリ圓則
 此ヲ上ニ奏聞ス則勅詔アツテ文永年中ニ此所ニ
 佛閣寺院ヲ修造シ玉ヒ光明院ト号シ尊灵ヲ鎮メ法
 施不退ノ所トス仍以テ此所歴代ノ天子御造營
 アリ其後大圓住職ノ觀勝寺ト号ス有云觀勝寺ハ當寺ニハアラス東山ノ中ニ同名別寺有テ共ニ大圓住居ノ寺也ト是ニ依テ堪囊抄ニ載ス所左如
 觀勝寺當寺ノ建立ハ何比ゾ并ニ本願上人ノ御事如何
 當寺觀勝寺ハ法相道昭ノ付法ナリ又義淵上人上足

ノ内行基其第二ナリ。夫ニ仍テ行基并ノ州創トノ護化
 佛法ノ其地タリトイヘ氏荒廢星霜ヲ經テ後三井東坊
 法橋行圓再興セリ。是ニ依テ當寺ノ本縁起ハ園城寺ノ
 經藏ニ在リト云然レモ又零落年深シテ止住ノ僧モナカリ
 ニ龜山院ノ御宇文永五年戊辰九月比大圓上人
 不慮ニ此山ニ登テ住持セシメ玉ヘリ已下
 ○足利直義就御祈被送當寺狀如左
 紀州凶徒對治事所被下院宣也。早於當寺轉讀
 大般若經王部可被致祈禱誠誠之狀如件
 貞和四年八月一日 左兵衛督判

觀勝寺

○阿彌陀堂 在門内東向 本尊阿彌陀佛坐像八尺
 作當寺帥法眼誓願寺摸本尊以土作
 ○御影殿 在同所北南面 後水尾院震影安由臺
 東福門院御牌東壇 明正院御牌西壇 共厨子安奉
 此堂ハ初明正院黒戸御殿ナリ遺勅ニ依テ造ラレ
 ○大日堂 在阿彌堂南 大日如來坐像三尺許 作帥
 ○佛殿 東向 額佛母殿厨子揭 明正院震筆
 本尊 准服觀音坐像一尺 脇立左 難陀龍王
 右坂難陀龍王共立像二尺二三寸許 作帥法眼堯海
 當堂 東福門院御願此本尊安置ニ玉ヘル
 東福門院 明正院御宅胎ノ時御平産御祈願ノ故ナリ

○崇徳院宮 在佛殿南東面 額 崇徳天皇

堅額 筆者不詳 天皇震影 衣冠坐像 二尺余 作堯海

記云 後鳥羽院元暦元年四月三日建立。當寺ニ

同震影ノ畫圖アリ。衣冠坐像右ニ向玉ヘリ。御長二尺四五

寸許。并御隨身像アリ。衣冠老懸尻籠ヲツケ弓ヲ持シ。

左向四位袍。右向五位立像三尺許。

因云 崇徳院陵 讚岐國兒嶽ニアリ。前ニ為義為朝

墓アリ。五輪ノ石塔ヲ立ツ。或書云 天皇配所ニヲ并テ。閑暇

ノ日五部ノ大乘經ヲ書寫シ玉ヒテ。都ノ内ニ納玉ハントテ。都ニ

ツカハシ玉フニ。御製ノ和歌ヲソエ玉ヘリ。濱干鳥跡ハ都ニ

カヨヘドモ身ハ松山ニ子ヲノミヅナク。然ルヲ少納言入道

信西奏シケルハ。若呪咀ノ御心ニマトテ。御經ヲ返シケルバ

帝大ニ憤リ玉ヒテ。大魔王トナツテ。天下ヲ朕ガハカラヒニ

ナサント誓テ。御指ノ血ヲ以テ願文ヲ書玉ヒ。彼經ノ

箱ニ奉納。龍宮城ト書シ。堆途トイフ。海底ニシヅメ玉フ。

海上ニ火燃テ童子出テ舞踏ス。是ヲ御覽ジテ所願成就

ストノ玉ヘリ。夫ヨリ爪髪ヲ截玉ハズ同國 甲知郷鼓岳

ノ御堂ニヲツリ玉ヒ。其後六年ヲ經テ長寛二年八月廿

六日ニ崩御シ玉ヘリ。御年四十六。同國松山ノ白峰ニ

葬リ奉ル云々

○清泉 在庭東 内侍ノ愛水トイフ

○佛種塔 在寺内 内侍ノ塔ナリ此所ニ終リ

○鎮守社 在阿弥陀堂南東向

祭所

神明 八幡 春日

○鷲峰山 又岩濤 高臺寺 在祇園巽

宗旨禪

齊家 門西向 佛殿 敷敷 敷敷 敷敷

本尊 釋迦佛 坐像二尺 脇士左 迦葉 右阿難 共立

三尺 新作 脇壇北大元像 倚于懸腰 此像禪家安

此ヲ鎮守トス形相唐冠唐衣 右手額三挿頭 又或挿頭 俗衣

釋氏也又安所ノ壇ヲ土堂ト云已下記所禪家是效

同南 達磨大師 坐倚子長 共二安厨子 此厨子

當寺ノ本願政所公ノ牛車ノ上屋ヲ用ヒラル

○方丈 在佛殿東南面 門 同唐門左 方丈 南向

南面 縁長押上木石唐人彫物彩色間内張付障子

地金畫圖仙人岩木鳥雪松西湖芦雁狩野家弘意

了溪永徳土佐光信等筆之縁正面唐戸余八重筭ノ戸

金腰障子白木組天井○佛間 正面板敷金本尊

千手觀音 坐像一尺 作不考 脇壇安所 左 三江

和尚畫像 右政所公親屬畫像

此方丈 秀吉公朝鮮凱陣ノ祝義饗應ノ時設玉ヒテ

他ニアリ以テ引移ス處ナリ○小方丈 大方丈ノ東ニアリ

此所内東向ニ額アリ 秀吉公ノ詠歌十首ヲ書セラレ

聖護院道澄法親玉筆 和歌如左

此方のももよみあらしうさあらしうと石巻のね

山州の地をくまひて空の月をせらるる山崎下て
江大けりくろくあれぬ秋までしり流る月を梅
さくくれもみちのちりきり

むかひの昔よりわたりたきよき山崎のちりきり
写す山とほるんとて

秋より空の月の影をくまひて山崎のちりきり
園東の山はふもほるとさくちりきり

くまひて山崎のちりきり
園とくまひて山崎のちりきり
信じて山崎のちりきり
まきよき山崎のちりきり

山崎のちりきり

秋樂れきり

むかひの昔よりわたりたきよき山崎のちりきり

休ん山崎の湯のちりきり

山崎のちりきり

おくれ山崎のちりきり

長門の山崎のちりきり

山崎のちりきり

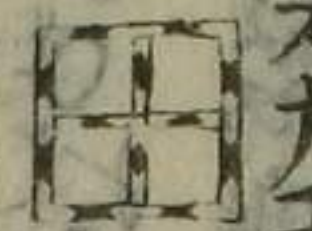

山崎のちりきり

山崎のちりきり

山崎のちりきり

相傳此の形を以て之を考ふる所あり此の形を以て
神ありとててててててててててててててててててて

○開山堂 在方丈東南向 前庭有池 門南向 額 重關
横額雪月堂筆

堂南向 南北五間東西四間半開戸二片
其左右窓火灯口白壁堂内敷瓦黑漆組天井縁毬杖
面金具減金枳形及長押上彩色畫アリ堂内南面ヨリ
へ一。間退テ朱漆ノ丸柱アリ長押ノ上彩色卷柱柱ノ間
一間半其間北ノ正面長押ノ上幅六寸許横一間半ノ所
鏤彫物赤白菊ノ折枝其東西各一間半八張付金銀ノ
切箔スナガナリ此所天井ノ中央ニ別ニ縁ヲ取テ中ヲ四ツ
ニ分ル  如此縁黒塗毬杖面地板紙張泥列中ニ  此

トキ黑白ノ地取四ツアリ中ニ萩 薄菊 紫陽花 桔梗ヲ
畫彩色是即政所公車ノ上屋ノ天井ナリ又摠細骨黒塗
ノ中赤白ノ彩アリ

○開山像安所堂ヨリ退ト二間許取合下屋祢其下左
右壇ヲ安牌其奥唐戸二枚前ニ箱階アリ高サ二尺許
額法雲 横額雪月堂筆

○三江和尚像 持竹筒坐椅子 和尚迂化 慶安三年
長二尺七寸許 八月二日
右和尚影ノ間ノ前堂内左右壇アリ厨子安壇高四尺許
厨子黒塗腰障子四枚内金所安東厨子
○木下二位法印像 法服袈裟坐像 法名 常光院殿前
二位茂叔淨英 左座 二尺四寸許

○法印、妻尼像

相形右同

雲照院、齡岳、永壽、右座

同西壇、厨子

○堀監物像

衣冠赤袷持笏帶劍
坐像二尺二三寸許

法名

千手院、殿前城

門、即傑山、道英居士

○秀吉公并政所公、魄舍

在祖堂、東山上、○卧龍

祖堂ヨリ、魄舍至廊云、額卧龍

雪月堂筆、○魄舍、南面

外南西築垣、東ハ山北、番僧ノ居所ノ門

南面、小門開戸

金具減金門、前上壇上ルニ切石ノ階アリ

○魄舍宝形造、屋祢柿、梁東西三間半、南北四間東

西二方縁欄、半擬寶珠、金具減金、南面段階、階ノ上

唐破風、鏘彫物、二重楠、金具減金、唐戸二枚、金具同

唐戸、口幅一間半、其左右各一間、此所及東西戸外重

簀黒塗、内金張、地取置上金雲繪、梅、櫻、牡丹、芍薬、石

竹、柘榴、菊、山茶花等折枝、長五六寸許、ナルヲ散シ、其間

飛鳥アリ、青白ノ唐鳥、長三寸、尾五寸許、狩野古石京

筆、天井如此、簀、堅二本、横一本、四方縁共黒漆、毬

毬面、金具同、前地板紙張、淺黄金切雲、莖無金蓮花、莖

無、八重菊ヲ散ス、菊金或ハ彩色、長押ノ上板、屏模、楨、前二

同、間内柱、長押上下、敷居、皆黒塗、長押上三十六、歌仙

像ヲ掲ル、堅九寸、横七寸許、土佐光信筆、和歌ハ八條、智

仁親王筆、第五御子、北間上壇、長押上三間半ヲ三間

分、板、異、鍔、網、彩色、緑青、又三間、每ニ網ノ中央ニ金、菊、三

ヲ居ル。且五寸許。双ビ此。下ニツノ間二尺許。翠簾ヲ繫。正面ノ縁。檜皮緞子。上横縁幅七寸許。堅常ノ如同。左右ノ縁地。憲法織紋。八重菊。練糸。淺黄。桃色。葉萌黄。翠簾ノ内。水引。鈕先ノ風帶。ツクル。地白。萌黄。今織。始繫。ハ。地平。絹。桃色。紋。乱菱。金ノ摺。箔ナリ。戸張ノ内口。深五尺許。板敷。其北上壇。高寸三。尺。正面段階。四段。欄干。擬宝珠。金具。減金。同。左右壇。高一尺九寸。壇縁段階等。黒漆。蔴繪。欄干。畫。地カ。カ。散紋。樂器。階及壇縁。櫻川花。伎階。左右壇下。金張付。畫海邊。松原。天井。白木組。天井。奥正面及左右。金張付。畫海邊。又平沙。松原。松長一尺二三寸許。上ハ木ナレ山。古右京。筆。正面ノ壁。ニ。丸柱。二本ヲ

立ル。其間七尺許。柱黒漆。蔴繪。地紋カ。カ。散形。樂器。正面壇上。深サ五尺許。板敷。黒漆。上ニ翠簾ヲ繫ル。縁緞子。檜皮。翠簾ノ外。減金ノ瓔珞ヲ繫ル。菊花。蓮花ヲ作ル。其中。大ナルモノ。且二寸許。小ハ一寸七八分。此所中臺。三厨子。置。横二尺四寸。開戸四枚。内。杉色。紺地。空ハ雲。下ニ佛說經ノ相ヲ畫ク。中ニ横一尺許。青蓮華ノ花臺アリ。其上見臺ノ如ク。堅一尺横八寸許。板面。小像ノ地藏菩薩。干鉢ヲ造ル。中尊三寸許。座下。四隅。ニ。四天王ヲ安ス。長五寸許。白。前ニ舍利塔ヲ安ス。水晶玉持蓮花。長サ五寸許。正面上。左右。黒漆。有。厨子。加此。堅五尺許。横四尺五寸。深三尺許。開戸。二枚。長押ノウヘニ。及左右地板金。黒塗筋。箒。角。違二本。



宛戸内翠簾綠緞子檜皮同外櫻珞滅金菊花蓮花
翠簾内水引緞子地紅梅紋蔓藤枳形金欄中紅華
鬘結ヲ繫ル厨子左右共二同戸裏蒔繪東厨子左戸
楓ノ立樹右菊上ニ梧荅ノ紋アリ西厨子松竹畫大様
扉ニ滿 東厨子所安

○秀吉公影 唐冠白袍袴薄紫緋平緒持笏
坐像二尺五六寸許座厚疊 西厨子所安

○政所公影 法體花帽子別以絹爲之衣薄紫袈裟金紋地崩
黃小袖地紫白表紋下印衣立右膝持念珠総紅

右此殿 政所公館ニアリ後此所ニ移サル

其殿地載未卷殿舎部

○安閑窟 在魄舎東山上 茶亭千利休以工造所

○政所公塔 在山上 法號 高臺寺殿前從一位湖月

禪定尼寛永元年九月六日薨去

此外 天哉公羽長嘯等木下家ノ塔アリ

○獨秀峯 當山峯ヲ云 當寺開基 弓箴和尚 宗派曹洞 中興三江和尚 齊家

始建仁塔頭常光院ニ住持ス弓和尚在職遷化年月未考

是元彼院ハ木下二位法印檀那ニシテ二位法名常光院
号ス法印ハ政所公兄相原ノ姓ナリ秀吉公木下号ヲ玉テ

木下肥後守号ス今此所ハ慶長年中太閤秀吉公ノ室
政所公ノ造營ナリ元是公ノ殿舎ヲ引移サル其舊地殿

舎ノ部ニ載タリ是ヨリ先政所公亡母追福ノ為ニ京極ノ北ニ
於テ一寺ヲ立テ康徳寺ト号ス當寺ハ即康徳ヲ改ル所也

●岩栖院 此院高臺寺草創ノ始ヨリ有テ今高臺佛殿ノ東ノ山ヨリ西ハ街道面ニ至テ其封地ナリ開基村菴彦長老此地細川滿元奇進ス彦即滿元ノ養子也政所公高臺寺建立時件ノ康徳ヲ以テ岩栖院ノ替地トナシ岩栖ノ地ヲ以テ高臺ノ境内トス其後岩栖院ハ南禪寺ノ内ニ移ル後又岩栖無住ナニ及シテ同所聽松院之ヲ兼帶ス今尚余リ高臺ノ地ニ始メ雲居寺アリ又今ノ方丈ノ地ヨリ北ニ至テ金山寺アリ藤原家成卿コレヲ立ツ此寺應仁ヨリ前已ニ亡滅スルモノカ其故ハ此邊炎上ノ寺院ヲ記スニ雲居寺アツテ金山寺ナニ金山寺ニ北門アリ此邊往古ノ圖畫ニ今アル高臺北ノ内門ノ邊

門有テ前ニ欄干ノ橋アリ

○牛王地社 下河原路傍ニアリ一巷社也 此所祇園

神最初鎮座所ナリ此ヨリ今社地ニ移サル此故ニ神官

社拜順回ニハ先此社ニ詣ス神ヲ牛頭天王トナスヲ以テ

其初在ノ社ナルノ謂ニテ牛王地ト称ス又此邊往古ノ

圖ヲ考ルニ此社ニ双テ南ニ石壇アリ其上ニ石ノ重塔婆

又五輪塔アリ 後人可考

○下河原 件ノ社ヨリ西南昔ハ河原也謂意ハ其流ノ

下ノ方一面ノ河原ナルヲ以テ下河原ト号スト水上ハ雲

居寺ト双林寺ノ間ヲ経テ下ル山上ノ滴リナリ其時ハ

山林繁茂スル欵今牛王地社ノ南ノ橋大ニシテ谷河大

ナリ。此流西方安井ノ内ニ入テ。建仁寺方丈ノ北ヲ流テ。同所西門ノ北大道ノ下ヲ流シテ。今云宮河町ノ北ガシラニテ鴨川ニ入ナリ

○菊水井 下河原人家ノ間路傍ノ東ニアリ。此所往昔河原ナリ。此溪ノ源東ヲ菊溪ト云。其下流ノ地ナル故ニコノ名ヲナス者歟

●崇徳馬場 實ハ崇徳院ノ社ノ馬場ト云。義ナリ。社ハ即安井ノ内ニアリ。社古ハ大架ニシテ封地廣シ。鳥居東面ニ立テ路ノ南北ニ双樹アリ。此街下河原條ニ通テ午王地社ニアタレリ

●宮之辻 崇徳馬場ノ中ニアリ。其所今ヲ以テ云ハ安井

ノ東門ヨリ南二十四五間ニ當テ彼馬場也。辻トハ其中南北ニ通テ街アリ。此條北ハ祇園觀慶寺藥師堂ニ通ズ。南ハ五條通清水ノ坂面ニ至レリ。宮之辻ト云ハ彼所西ハ崇徳宮。東ハ下河原牛王地宮ニ通ジテ。其中央ノ辻ナル謂也。今畠トナシテ此巷ナシ

○七觀音院 在下河原南 門 東向 堂 同 宗旨

真言 本尊七躰ノ觀世音也 一如意輪 二聖觀

音 三千手 四准胝 五十一面 六馬頭 七

不空羂索觀音也。中尊如意輪 尺許 作弘法大師

馬頭 尺餘 不空 同 其餘八立像一尺二三寸許。六躰

作春日中尊ノ左右上下ニ安ス。中尊始 高倉院 御

持尊ニシテ宮中ニ安ス 勅シテ當寺ヲ造テ安置シ玉ヒ
號護持院是則天下泰平今爲護持謂也今尚
寶祚安全一天太平爲御祈月次以卷數獻 朝廷其
後又春日作以六躰觀音共ニ安ス仍七觀音院ト云
此院始東山ニアリ中比洛中ニ遷ル今云烏丸通七觀
音町是ナリ其後今ノ京極ニ遷ス其地 中御靈南也
後又今ノ地ニ遷ル

● 桂橋寺 傳云此寺在下河原其地及名義不詳借武荒廢

二至テ本尊觀世音今四條中源寺ニ安是也 開基不詳

○ 青龍寺 在高臺寺南小路 宗旨淨土 本尊 聖

觀音 立像五尺 以香水作 作傳教 脇土左毘沙門 立像二尺許

右地藏 立像二尺 各作不考 此本尊往古ハ西山ニ安

長德年中ニ彼寺燒失ス其ヨリ當寺ニ移ス

○ 八坂 所名 蓋郷名也延喜式ニ出 其方領凡祇園ヨ

リ三年坂ニ至ル欵八坂ト稱スルハ方地ニハノ坂アルニヨル

所謂 祇園坂 長樂寺坂 下河原坂 法觀寺坂

靈山坂 三年坂 山井坂 清水坂 是ナリ云々

● 靈光山法觀寺八坂寺トモ在八坂 堂宇斷絶ノ五重ノ

塔存ス 此所聖德太子ノ建立也衰微年久ニテ寺院

總ニ殘テ塔ノ傍ニアリ塔四面ノ本尊

釋迦 大日 阿闍 寶勝

○ 太子堂 在塔傍西向 聖德太子像 立像一尺 四手許 新作

○藥師堂 在塔北南向 藥師佛并十二神安 小像

舊記并圖ヲ考ルニ昔ハ大門西向太子堂鎮守ノ社等

巍々タリ往還ノ通路ハ今ノ塔ノ南方民家ノ南河邊

ヲ上リテ三年坂ニ至レリ當寺ハ推古帝ノ御宇ニ

聖德太子持念シ玉フ觀音ノ柔像ノ示現ニ依テ此所

ニリ灵光ノ現スルヲ見玉ヒ是靈地成ヲ智テ地中ヲ穿チ

玉フニ石蓋有テ中ニ光明耀々タル佛舍利ヲ安ス此故ニ

五重ノ宝塔ヲ建立シテ彼舍利ヲ其下ニ藏玉ヘリ後代

ニ及テ真言宗トシテ觀修寺ニ屬ス今此東隣ニ殘處ノ

十輪院ハ法觀寺院内ノ隨一也ト云フ板倉氏防州京都

司職ノ時ヨリ建仁寺ノ塔頭大中院兼帶也昔ハ此塔

傾斜ノ形ヲナシテ 帝都ノ變ヲ示セシトナリ 釈淨藏此寺

住ス彼傳云天曆中寓八坂寺時指紳多集見塔云

塔之傾斜也其方有凶今是塔傾向王城為之若何

藏云我又思之早可脩治以為捨財也其夜坐露地

向塔持念朝見之塔婆端直 要ヲ取テ是ヲ書ス 元享釈書十卷

人麻呂社 在法觀寺内 鎮坐ノ年記未考

○引導寺 昔在八坂 舊地不詳 法然繪詞傳云

法皇崩御ノ後彼御菩提ノ為ニ建久三年ノ秋比大和

前司親盛入道見佛八坂ノ引導寺ニシテ心阿弥陀佛

調聲ニ住蓮安樂見佛等ノ類助音シテ六時禮讚ヲ

修シ七日念佛ス中略是六時禮讚苦行ノ初也 第二卷

或説云、引導寺舊跡今云、八坂青龍寺其所上此義太
 不審其故、彼南隣法觀寺元、寺境廣く今高臺寺ノ
 門ノ内半ニ至ル。况ヤ青龍寺ヲヤ法觀寺ノ圖ニ明カナリ。
 此圖法然在世ヨリ遙後ニ書所ニシテ。或社ニ藏レリ
 八坂墓 延喜式ニ出今不詳。八坂墓贈正一位
 藤原氏在山城國愛宕郡八坂郷。墓地十町。墓戸一烟卷
 靈鷲山正法寺 在八坂卯辰。宗旨時宗門西向
 中興國阿上人 此人福祐ニシテ。當山并ニ双林寺
 安養寺等往古ヨリ山門ノ別院タリシヲ傳受シテ吾
 宗ヲ開ケリ。國阿傳粗前ニ見エタリ。當山記云國阿
 弥始名真空苦修經歴冥場偶謁他阿上人遊行
七代

稟時宗法下畧 昔八天台宗ニシテ佛閣嚴重也

○堂 在山上高額 靈鷲山 堅額 弘法筆 ○本主

國阿上人像 坐像二尺四五寸許 自作 ○本尊 釈迦佛 坐像二尺

是最初ノ本尊也 國阿堂西堂安置ス古ノ堂ヲ葉

嚴院ト号ス古堂ノ舊地今國阿堂ノ下壇浴室前其

所也 寬平上皇ノ御時紫雲ニ乘ノ降臨シ玉ヘル一

寸八分ノ釈迦佛ノ像アリ。天皇詔リヲ下シテ當山本

尊釈迦ノ頭中ニ藏テ茄藍ヲ造營シ玉ヘリ

○阿弥陀堂 在開山堂北 本尊 阿弥陀佛 立像三

作不詳 此像板齒見ル、故ニ世人稱シテ齒佛ト云也

天照大神ノ御示ニ依テ國阿弥上人感得ノ像ナリ。

委縁起 ○毘沙門長四尺余作管神安同堂古毘沙

門堂アリ旧地開山堂西北半町許塔頭正知院後是ナリ

○神明宮 在開山堂東 宮西向 此所鎮座事ハ

昔當山ノ麓ニ鼠戶長者ト云者アリ其女ニ託シテ此山

鎮坐シ玉ヘリ 委縁起

○辨財天社 在惣門内右方山下 社南向 拜殿 后

内ニ辨財天像ヲ安ス坐像ニ尺許 作弘法大師 初當山ニ

天女降臨ノ古證アリ畧ス

●歌仙堂 天哉翁長嘯建立ノ所今ハ亡 辨財天社

ノ東方山腹平地其所也

○念佛堂 在右社西 往昔惠心僧都開居ノ所

シテ則自作ノ佛像有又法然上人籠居セリ傳云所々

別時念佛ヲ修シ不斷ノ称名ヲツトムル事源空上人ノ

在世ヨリ起レリ其中ニ上人元久二年正月一日ヨリ靈

山寺ニシテ三七日別時ノ念佛ヲ始メ玉フニ燈ヲクシテ

光明アリ第五夜ニ至テ行道スルニ勢至菩薩同列ニ

立テ行ジ玉ヒケリ 繪詞傳卷二十

○國阿塔 此地今高臺寺ノ界内ニシテ是ヨリ行程一

町許丑寅ニアリ應永十二年乙酉九月十一日寂九十二歳

○當山ヨリ伊勢熊野社參ニ觸穢除被ノ印文ヲ授ク

是則國阿上人神勅ヲ得テ永ク後輩ニ授ル處也事ハ

神祕ト云々又双林寺ニモ之ヲ授ク上人ハ尋常神明信

敬ノ人ニテ。伊勢日奈ノ木履并杖上ニ國阿堂ニアリ
。國阿上人傳 奇異雜談云。靈山正法寺、開山國
阿上人ハ晩出家ナリ。在俗ノ時ハ公方奉公ノ人ニテ名字
ハ橋崎名乗ハ國明則播州橋崎ノ庄ノ領主ナリ。相國
鹿苑寺殿エメサレテ上リシ時。旅宿ハ則北山鹿苑寺近ク。
蓮臺野ノアタリニ有。伊勢國丹生庄御タイヂノ事アリ。橋
崎承テ出陣ス。在陣ノ間ニ留守ノ内妻懐妊ノ上ニ大病ヲ
得テ煩フ。故ニ難産シテ死ス。留守フベシノ故ニ蓮臺野ニヲ
クリテ土葬ニスルナリ。即使者ヲ陣中ニツカハレテ此ヨリ告
ルナリ。陣中不便成故ニ作善フイナム事アタハズ。夕ニ三錢
ヲ以テ非人ニ施ス事毎日セリ。取乱スコト有テ二日間断

シテ。又相ツヰキテ毎日施セリ。陣中功成名遂テ凱陣ス。
公方へ御礼申終リテ後。蓮臺野ニ行テ。彼塚ヲ見テ燒
香念佛スル間ニ塚ノ下ニ赤子ノ啼聲聞ユ。アヤシミテ
シバラク聞處ニ。其一二町前ニ茶屋アリ。其亭主來リテ
橋崎殿ニ。御凱陣メテタキノ由御礼申テ。次ニ此間
不思議ノ事候ホドニ申候。二十四五日巳前ヨリ。幽
靈トオボレキ女人茶屋ニ來リテ。三錢ヲ持テ餅ヲ買
テ。飯リ候。毎日來リレカ。一日間断シテ來ラス。又前ノ
如ク來リレ也。此一二三日巳前マテ來リ候。飯ルヲ見レバ
北へ行候カ。半町許ニシテ消テ見エズ候トイハ。橋崎
殿オドロキテ云。陣中ニテ非人ニ施ス處并二日數ノ

山州志卷之二

五十七

次第幽霊ノ來タル所ニ相同ジキハ志ノ通フ所疑ナレ。然ラバ塚ヲ掘テ見ルベシトテ。供ノ衆鋤ヲカリテ掘ル。赤子アリ。取出シテ是ヲ茶屋ノ亭主ニツカハシテ。養育シテ見ヨトテ。太刀刀持シタル武具ヲ皆茶屋ニツカハシ。明日私宅ニ來レ。具足胃ヲモ遣スベシトイヘリ。彼死骸ハ既ニ爛壞シタリ。元ノ如ク土ヲカケテ置ナリ。只ツノ子ヲ思フ所ノ執心。冤魄幽霊ニ化シテ。子ヲ養フテ今日ニテ赤子ノ命アリシモノナリ。哀ナル事ナリトテ。泪ヲ流シテ飯宅ス。即發心ノ義。公方エ御暇申テ開東藤澤ニ下リ。出家シテ國阿弥陀佛ト云シ大道心。修行五十年ノ間ニ佛神ニ通ジテ。奇特多キ事。緣起ニ委レシ云。

●舉白堂 是長嘯子閑栖ノ稱号也 此所摠門ノ外東方

上壇ノ地ナリ。長嘯和歌ヲ翫ヘリ。其詠集世ニ行フ舉白集是ナリ。慈愛ノ女終焉ノ御遺骸ヲ可藏此山田。依遺言舉白堂ノ邊ニ葬ルヨシ載彼集。其所今不詳。長嘯又當山ヨリ。小塩山ノ勝持寺ノ地ニ移住リ。終ニ於彼

山卒セリ。葬高臺寺。

○靈山 詠和歌 靈山ハ靈鷲山略言也 和言 鷲尾山

續古今集詞書 文永元年乃美鷲尾のいゝあひてんゆり
 まつゝいゝあひてんゆり
 新續古今集詞書 ひんがしよ山よりのあひてんゆり
 とくはんふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

鼠戸ネズド 此所今ハ亡ナシ靈山大門ノ前南方畠ノ地コレナリ則チ町ノ人家ノ後ニ中ル古老ハ猶鼠戸屋敷トイフナリ此所鼠戸長者トイフ者アリ鼠ノ隠里ヨリ寶ヲ送與レヨリ富榮レト云フ

山井 此名於所今知人無シ按ズニ靈山摠門ノ東ナルカ出盛衰記見次下是則所ノ名トシテ人家アリト見頭注密勘云東山ノ傍ニ山井トイフ所アリ山井中務トイフハ何比ソヤ住所ニツケタル名ト聞タリ一條東洞院ニ山井ト云フ神モオハスメリ云

山井溪 出盛衰記是則自靈山前至清水寺中壺ニ

アリト見エタリ則今云フ三年坂ノ下流是ナリ此水源清水ヨリ乾靈山ヨリハ巽ノ谷ヨリ出ツ今坂ノ下ヲ南ニ至リ人家ノ後ヲ西北ヘ流シテ八坂ノ庚申堂ノ後ヲ經テ安井ノ内ニ入テ上ニ載シ菟水ノ流ト合シテ鴨河ニ出ツ按ズルニ古ハ此溪深フシテ大ナル橋アツテ清水ニ至レリ其道昔ハ靈山摠門ノ前巽ニトヲツテ今有坂面ノ大日堂ノ上ノ方エ出ルカ其邊今尚溪ヲカシ昔膏山ノ大衆遺恨ノ事アツテ清水寺ヲ亡サント大勢走向ノ時清水寺ノ衆僧是ヲ防グニ山井ノ溪ノ棧道ヲ落シテ西ノ大門ヲ守ル由載タリ又此橋ノ事載著聞集文云將軍入を殿下りて上流の時橋水の傍にあり

けりといふもの其々の分領もさうさうに白き悪き悪き鬼
 のなきごらうこころさう梓らうがきりてさうらうが。みを
 又さうさうりけり。さうさうさうのほれ。さうらう者といふたうが
 けり。さうへさうらうてつひにけり。たうらうらうてさうらう
 さうらうは。といりさうを。けり。さうさうさうさうさうさう
 さうらうは。いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうらうを。さうらうさうさうさうさうさうさうさうさう
 白の程を。さうらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 △観勝寺谷 右同溪中云霊山東也 霊山四至證文東限
 観勝寺谷トアリ。一説観勝寺此所ニアツテ。大圓法師住。未考
 ○三年坂 是俗稱ナル歟此名不見實記今云ラ處ハ靈
 山南至清水中間ニアリ。諺云。此坂大同三年ニ開タトモ

又ハ子安塔ニ至ル故ニ産寧坂トモ。難信用。古老説曰名
 三年坂トハ清水寺門前ノ巷東西ノ坂ヲ云ラ也ト
 因曰。今云フ三年坂。中央西ノ岸上ニ藪アリ。岸ニ垣ヲ
 作ル垣ヨリ藪ニ入ル口ヲ開テ竹ノ編戸アリ。予或時此
 所ヲ登ルニ侍ト見エタル者。彼編戸ヲ指シテ云ク。コノ所
 景清ガ六波羅ノ牢ヨリ忍出テ。清水寺エ參詣セシ
 道ナリ。此故ニ今猶道ヲ殘スト云云。珍説ヲ得テ後。古老
 數人ニ尋ルニ更ニ傳説ナシト云フ。此藪東西高岸ニテ
 道十ク南ハ人家ナルユヘニ藪ニ至ル道。此所ヨリ外ニア
 ラス。是故ニ此口ヲ開ク偽説ノ甚者可笑
 ●清水岡 古老曰。此所三年坂ヨリ。六波羅ニ至ル南方

● 人家西三東西一町余續丸岡是也東方無人家一壇岡
ナリト云今猶六道東辻ヨリ望之毘山ノ跡現ニ見ユナリ

● 一竹塚 源平盛衰記云清盛左衛門佐タリレ時大内ニ
テ鶴ノ色ヲナス化鳥ヲトル是毛レタト云モノ也鼠唐名

也博士ノ占ニ清盛取止ルコト吉祥ナリト南臺ノ竹ヲ召
中ニ籠ニ清水寺毘ニウヅマレタリ御惱ノ時勅使立テ

宣命ヲ舍ル時毛シラ一竹カ塚ト云ラ是也 卷二十四下

△ 三本卒都婆 是所名ナル欵古清水ノ邊ニ在リ見今不詳
奇異雜談集云應仁乱中ノ事ナシ五條東洞院下高倉ト間ニ
足輕一人アリ夏比ナル清水ニ參詣ス朝食以前三隅子紋帷ニ崩
黄毛レノ十徳ニ刀照指宿ヲ出中間ノ肩衣ヨリ袴ニ主登ヲ願

○ ニカケテ手鐙ヲカタケテ跡ニユク畠山方ヨリ此足輕
ヲ生害セントテ連々子ヲフテ此時三本卒都婆ノ邊ニ

テ人數アリテ主從二人ウタルナリ下略

○ 經書堂 号來光院 在三年坂上南向 聖德太子於

此弥陀三尊ノ空中ニ影向シ玉ヲ拜シテ草創シテ所

也小石ヲ集メ道俗男女ニ法華經及諸大乘經等ヲ令
善潤水シテ諸職會冥ヲ弔ハシメ自他得益之種因ヲ授

玉ヲ善巧方便ノ所也 本尊 聖德太子 十六歳相 自作
脇壇 安阿弥陀佛 觀音勢至 真言宗僧守之

○ 嫗堂 号金性院 在經書堂前北向 安三途河老婆像
尺許 坐像 三 作運慶 初五條河原ノ岸上ニアリ

大日堂 在經書堂東南向 安大日如來坐像七尺許
作弘法 開祖不考 當寺始在富小路中御門南号尊
體寺移此所改真福寺 有堂内輪藏 由來不詳

○泰產寺 于世云子安

三重塔婆 西

本尊 千手觀音 坐像 二尺許

脇士 地藏 毘沙門天 作未考

傳云天平年中天照

太神勅託同

聖武帝后妃光明皇后草創也自是先

后妃懷胎ニヨツテ太神ニ祈誓ス。或夜小像ノ觀音大士枕

上ニ現スト。靈夢ヲ感セリ。覺テ後一寸八分像在枕上

如所夢終ニ出產平ニレテ皇女ヲ誕ス 孝謙帝是也。

以彼小像今本尊胎中ニ込ル。是因縁ニヨツテ後世ノ女

人安産ヲ祈ニ益冥驗アリ。舉世稱子安觀音 縁起意

○地藏院

在泰產寺前

本尊

地藏

立像 八尺

作弘法

中尊 如意輪觀世音

坐像三 尺許

作春日

此觀音ハ

古号妙心老尼ノ持尊ニシテ安州菴其地當山瀧ノ

南路傍東ナリ。彼尼寂滅後移當院相好無倫也

○車舍馬止

在地藏院東

清水寺參詣輩下乘所

也上古ニ高貴人乘車セルユナリ

